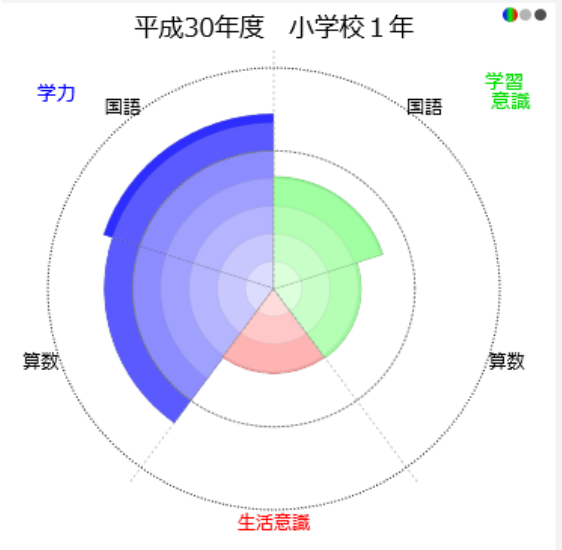
令和元年7月
横浜市立新田小学校

30年度（31年2月実施） 横浜市学力・学習状況調査の結果と今後の取組について

1年（現2年）

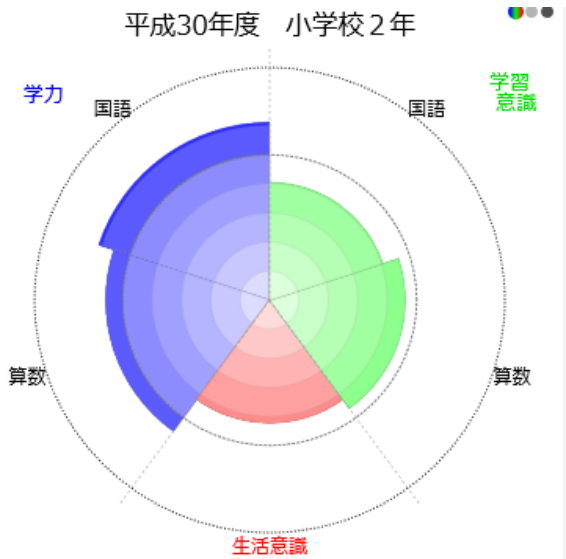


国語・算数ともに市の平均よりも学力が高く、特に、基礎基本となることは身についている。国語では、ひらがなや漢字を書いたり読んだりすることが得意で、助詞などを正しく使うことができる。算数では、足し算引き算、時計の読み方、数の構成などの技能や知識理解に関する能力が高い。

その反面、学習に対する意欲にやや欠け、生活意識や自己評価が低い傾向にある。

そのため、学習に興味をもって取り組むことができるようにしたい。子どもたちの「できた。」「分かった。」を大切にし、できたことに対して評価し、学習したことの意義や価値を実感させるようにしたい。

2年（現3年）

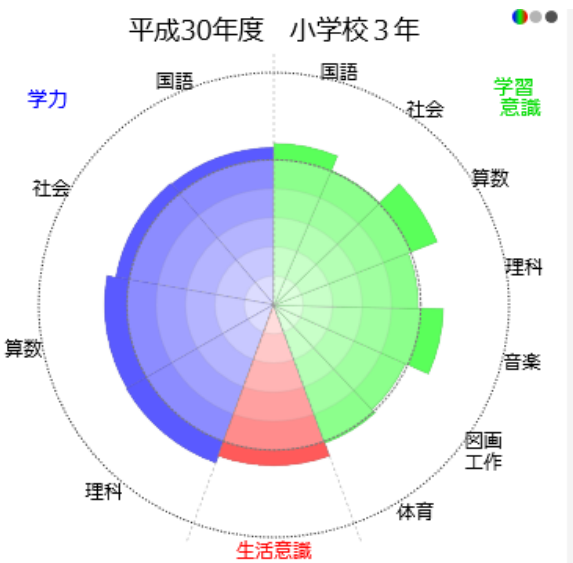


国語科に関しては、どの観点も市の平均を上回っている。

ただ算数科においては、「図形」の数学的な考え方や数量関係が市の平均より下回っている。図や式を用いて考えたり表現したりするような学習を取り入れていく。

またどの教科においても、一人学習、ペア学習、グループ学習を段階的に取り入れる。対話的・共同的な学習を通して理解を深めていけるようにする。

3年（現4年）

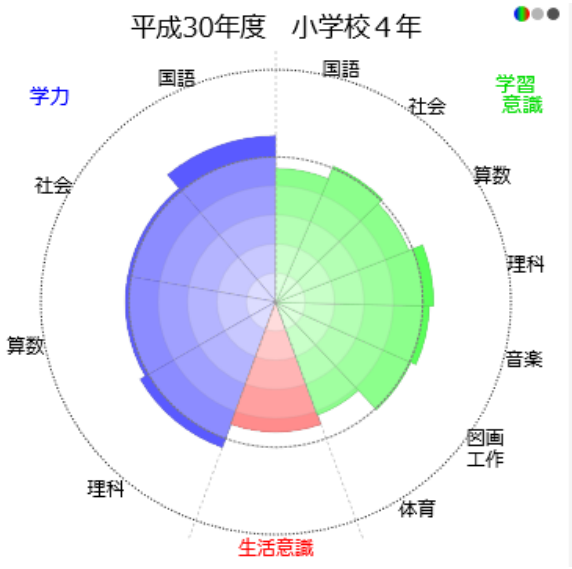


全教科を通して、正答率はほぼ市平均を上回っている。

国語の書く領域、理科の思考・表現を問う領域では苦手意識が見られた。互いの考えの違いに気付き、豊かな語彙で自分の思いを表現する力を高めるため、話したり書いたりする活動を多く取り入れていきたい。

学習・生活ともに意識の高さが見られたが、より一層学ぶことの楽しさを知るために、体験的、対話的活動を多く取り入れ、主体的に学ぶ機会を増やしたい。

4年（現5年）

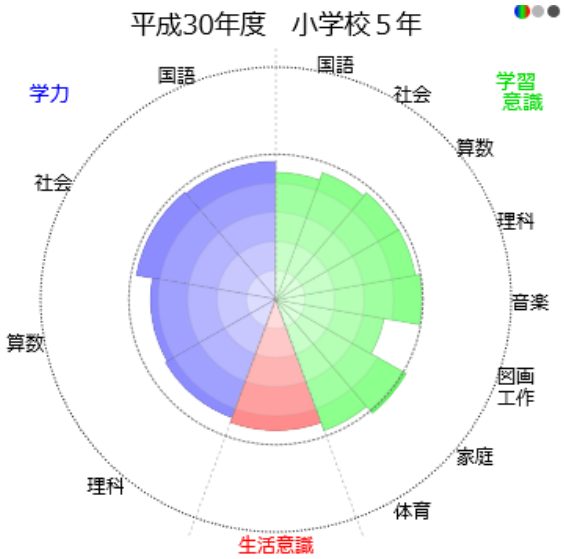


全教科を通して「基礎基本」の正答率は市平均と同程度である。「活用」の正答率は社会科が市平均と同程度で、他の教科は市平均を上回る。

算数科においては図形、量と測定に苦手意識が見られる。具体物を使ったり数直線などで図示したりすることで、問われていることや自分の考えを整理しながら考えられるようにしていきたい。社会科では同じ単元でも知識は身に付けているが、思考問題ができていなかったり、その逆だったりする現状がある。単元によって関心の度合いに差があり、そこが定着の差に表れていると考えられる。

課題に対してやるべきことが明確になり見通しが持てると黙々と取り組む。反面、自分の考えを積極的に発信したり自分なりの工夫で改善を加えたりすることに苦手意識を感じている子が多い。意欲的に学習に取り組めるようにする手立てとして、教科分担制を導入し、各教科で意図的計画的に授業の中で伝え合う学習を取り入れる。担任以外の教員の見取りを情報交換し合いながら指導に生かしていく。

5年（現6年）



全教科を通して市平均程度だと言える。観点別に見てみると、「知識・理解」は市平均を上回っている教科もあり、基礎基本となることは身についていると考えられる。しかし、「思考・判断・表現」「数学的な考え方」などの、考えたり活用したりして解く問題の正答率が低く、知識を活用することに苦手意識があると考えられる。

算数においては、特に図形に苦手意識が見られる。既習の図形の条件や、三角定規やコンパスなどの用具の正しい使い方をていねいに整理していきたい。理科では、「技能」に課題がある。検証したい課題に対して、どのような実験を行いどのような器具を使ったらよいのかを考える機会を多くもち、目的意識をもった実験の経験を重ねていきたい。

やるべきことが決まっている場合や、見通しがもてたことに対しては意欲的に取り組むことができる。しかし、自ら考えだしたり工夫して改善を加えたりすることに苦手意識を感じている児童が多い。思考の方法や考え方、言葉の使い方などの例を示して抵抗感を減らし、考える機会を増やすことで思考力を伸ばしていきたい。